

村債の現在高

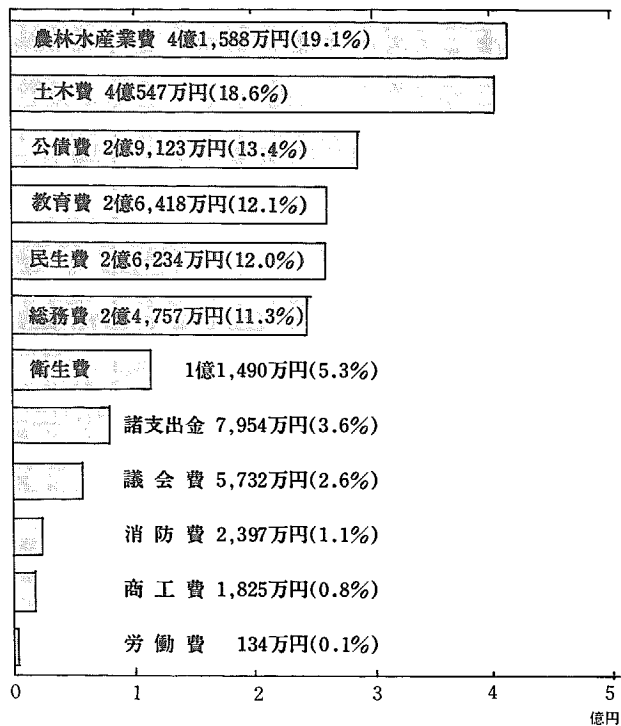
(62年度末)

道路・橋りょう・公園	4億7,677万円
義務教育施設(小・中学校)	4億7,593万円
農業施設	3億4,159万円
役場庁舎	2億7,558万円
保育所	1億2,664万円
その他	1億1,190万円
合計	18億 841万円

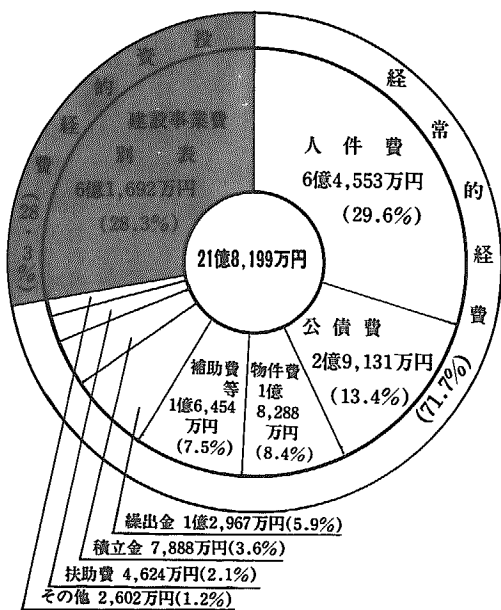


# 村の財政 お知らせします

<表2> 歳出 21億8,199万円



<表3> 性質別経費



<別表> 投資的経費

○旧庁舎宅地造成、庁用車、交通安全施設	2,342万円
○かんばらの里負担金	555万円
○農道整備事業、新農業構造改善事業、農村総合整備モデル事業、木津農免農道負担金	2億8,176万円
○道路改良整備、水路改良工事、たん水防除事業、地盤沈下対策事業、公園整備	2億2,921万円
○消防施設整備	194万円
○小・中学校施設整備、公民館駐車場用地	7,422万円
○その他	82万円
計	6億1,692万円
(前年度比)	89.7%増

○村民一人当たり使ったお金の状況(前年度対比) 二六・三%増  
 ○村民一人当たり借入金残高 一九三・三五二円(前年度対比) 二・六%減

村が使ったお金の状況は(表2)、農村総合整備モデル事業や新農業構造改善事業などを進めている農林水産業費が一九・一%、観光対策関連での道路整備などがあつた土木費が一八・六%と続いています。村債の返済にあてる公債費では、高金利の村債の繰上償還(三千百万円)をするほか、庁舎建設で底をついた財政調整基金の積立(五千八百万円)をするなど(積立残高九千九百九十九万円)、健全財政へ向けての努力がされています。

また、性質別経費(表3)をみると、職員給与や議員など各種行政委員の報酬である人件費や公債費などの経常的経費が七十一・七%、道路改良や農村総合整備モデル事業など積極的な予算編成の結果投資的経費が二八・三%となっています。

おもな内容については、(別表)を参照ください。(この決算見込みについては、今後、村議会で審議されることになります。)

# づくりをめざして

## 昭和62年度 決算見込み

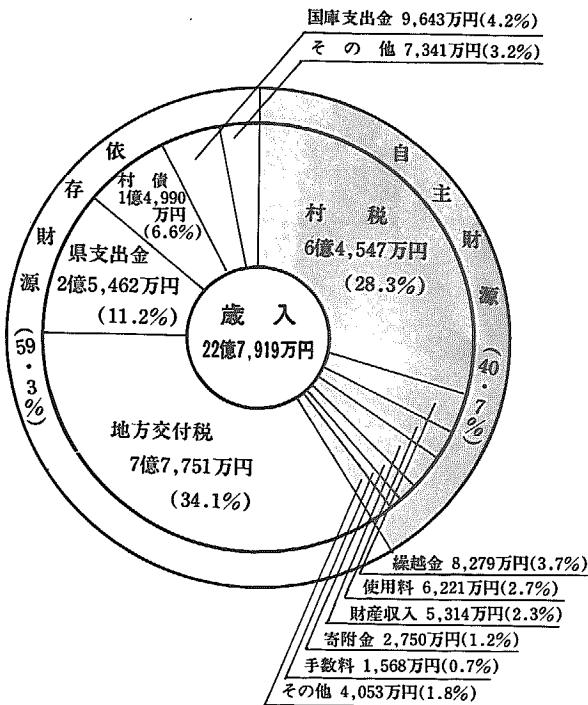
一般会計

村のお金がどのように使われ、村財政はどのように運営されているかを、村民のみさんから知っていただくため、昭和62年度の決算見込み(一般会計)をお知らせします。



観光対策で消雪パイプ設置される(沢海地区)

<表1>



### 村税の内訳

村民税	2億9,558万円	村民1人当たり 31,603円
固定資産税	2億7,210万円	29,092円
たばこ消費税	3,387万円	3,621円
電気・ガス税	2,614万円	2,795円
軽自動車税	842万円	900円
その他	676万円	723円
合計	6億4,287万円	68,734円

(前年度対比5.2%増)

### 【説明】

#### 六十二年度一般会計の決算 九千七百二十万円の黒字に

昭和六十二年一般会計は、当初予算十九億三千万円でスタートしましたが、その後、七回の補正を行い決算額(見込み)で入ったお金の(歳入)は、二十二億七千九百九十九万円に、使ったお金の(歳出)は、二十一億八千九百九十九万円となり、差引き九千七百二十万円の黒字となりました。

これは、人件費や物件費など年々固定的に支出される経常的経費の抑制を図るとともに、地方交付税の伸びや旧庁舎跡地処分、村税などで増収となったことによるものです。

しかし、現在の国の財政状況を反映して、この自治体でも苦しいやりくりが強いられるように、当村においても借金(村債)による財政運営を余儀なくされるなど厳しい財政事情となっており、ますます増大する行政需要に対応するため、村財政の一層の効率的な運営で健全財政を確保することが課題となっています。

#### 生活環境整備の促進と健全財政の再建に努力

村に入ったお金をみてみますと(表1)、村民税など自分の村で確保できるお金(自主財源)は四十七・七%、これに対して、地方交付税や村の事業に対する国、県の補助金等、それに借金(村債)など依存財源は五十二・三%となっています。

このなかでも、借金財政から抜け出すため借金を極力抑えたものの一億四千九百九十万円(六・六%)となり、借金をしなければ行政運営ができませんという極めて苦しい地方財政の実情にあります。現在の借金残高は、年々減ってきているものの一般会計だけでまだ十八億八千四百一十万円となっており、村民一人当たり十九万三千三百五十一円の借金をしている勘定となり、依然と続く苦しい村の台所といえます。